

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 5 日（月） 18：29～20：03

場 所：旭台生活環境改善センター

出席者：8 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※資料確認

3. 説明事項

(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）

※質疑応答

4. 懇談

(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）

※自由懇談

5. その他

(1) 地域の防災対策について（資料④）

6. 閉会

《懇談会内容》

意見：先日の災害時における広報車の放送は聞き取りづらかった。最近の住宅は気密性も高く、屋外の音声も屋内までは届きづらい。市街地以外の地域では防災ラジオなどでの情報伝達手段があると良い。

町長：近隣地域では防災無線を導入しているところもあるが、数年おきに設備を更新する必要がある費用負担も大きい。さまざまな手段を調査した結果、FMラジオであれば費用負担も抑えられ、災害時以外もさまざまな町内情報や番組などを放送できる。

質疑：子どもを授かり産婦人科にかかっていたが、町内に産婦人科が無く町外に通院していた。妊婦タクシーの説明があつたが、どの程度までの費用を助成してもらえるようになるのか。

福祉課：1 回あたりの助成額や利用回数などは今後検討して制度設計していく。道では片道 25 km を超える通院に対してバス代が助成される制度はあるが、本町では岩見沢市内にしても江別市内にしても片道 25 km 以内のため対象にならない。これを補完するための制度であり、さまざまなパターンを想定して検討したい。これに限らず、妊娠期を含め、町民のご意見をもらったり、先進事例を調べたりしながら制度設計していきたい。

意見：町内に産婦人科があれば一番良い。

町長：若い世代が求めていることは把握しているが、実現できない場合も想定して妊婦タクシー制度なども利用できるよう環境整備を図りたい。タクシー会社との連携も必要となる。妊娠期・出産前後までのセットで支援できる制度設計を検討したい。

質疑：日赤では、医師を呼ぶのは名指しなのか。それとも相手に任せているのか。

福祉課：診療科（医局）によって異なる。北大とは良好な関係性であり、札幌市からも近い立地

にあるので本町は来てもらいやすい。しかし、医師の定住までには至らない。週一の診療回数を増やすことを依頼するにしても、日赤を今後どのような病院にしていけるべきなのか整理が必要。町がイニシアチブをとりながら進めたい。

意見：医療とは言え日赤にとってはサービス業でもある。医療機器が良くても、医師がいないのでは悪循環となる。そのようなことも踏まえながら、改築に向けた検討を進めてほしい。